

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 1 月 30 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	16.1 °C	105.9 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.03 vol%
2 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h	25.8 °C	8.34 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%
3 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 0.0 m <sup>3</sup> /h	22.3 °C	0.23 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 5.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.07 vol%

\*1：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

### 【3号機原子炉注水流量変更】

- ・ H26/1/14 10:41 3号機原子炉建屋1階における無人重機による障害物等の撤去作業において、原子炉注水系の炉心スプレイ系注水ライン近傍での作業を行うことから、念のため、炉心スプレイ系からの注水を停止し、給水系による全量注水への切替操作を実施。
  - ・ 炉心スプレイ系原子炉注水流量：3.5 m<sup>3</sup>/h から 0 m<sup>3</sup>/h
  - ・ 給水系原子炉注水流量：1.8 m<sup>3</sup>/h から 5.5 m<sup>3</sup>/h
 なお、調整後の原子炉注水流量は安定しており、現在までに原子炉圧力容器底部温度等に有意な変動は確認されていない。
- ・ H26/1/30 13:20～13:38 炉心スプレイ系注水ライン近傍の障害物等の撤去作業が終了したことから、炉心スプレイ系原子炉注水流量および給水系原子炉注水流量を以下のとおり調整。
  - ・ 炉心スプレイ系原子炉注水流量：0 m<sup>3</sup>/h から 3.5 m<sup>3</sup>/h
  - ・ 給水系原子炉注水流量：5.5 m<sup>3</sup>/h から 2.0 m<sup>3</sup>/h
 なお、調整後の原子炉注水流量は安定しており、現在までに原子炉圧力容器底部温度等に有意な変動は確認されていない。今後も原子炉圧力容器底部温度等の監視を継続して行う。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (1/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1 号機	循環冷却システム	運転中	12.0 °C
2 号機	循環冷却システム	運転中	11.0 °C
3 号機	循環冷却システム	運転中	9.3 °C
4 号機	循環冷却システム	運転中	16.3 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・ H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。なお、同作業は平成 26 年末頃まで行う予定。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2 号機	2 号機 タービン建屋	→ 3 号機 タービン建屋	1/26 9:33 ～ 移送実施中
3 号機	3 号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）	1/24 14:37 ～ 移送実施中

- ・ H26/1/29 9:57～17:06 集中廃棄物処理施設において、サイトバンカ建屋からプロセス主建屋へたまり水の移送を実施。

#### < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/30 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。

#### < 5. その他 >

- ・ H26/1/29～ 凍結管を設置するための削孔については、掘りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。
- ・ H26/1/29 10:40 頃 運用補助共用建屋1階において、所内共通ディーゼル発電機(D/G)B(現在点検停止中)に燃料を供給する燃料タンク関連の機器より軽油が漏えいしていることを当社社員が発見。発見後、直ちに軽油配管の弁を閉止したところ、漏えいは停止。発電所内の電源供給については、外部電源からの供給に加え、所内共通ディーゼル発電機(D/G)Aが待機状態であることから、問題はない。漏えいした軽油は、ドレンパン(約40cm×約60cm×深さ約2cm)からあふれ、コンクリート床面に約4m×約2m×深さ約1mmの範囲で溜まっていたが、11:48から12:41にかけて、吸着マットによる拭き取りを実施。なお、軽油の漏えい箇所は、所内共通ディーゼル発電機(D/G)Bの軽油ライン燃料フィルタ(運用補助共用建屋1階西側に設置)の空気抜きラインであることを確認。本件については10:51に双葉消防本部へ連絡しており、13:06に「危険物漏えい事象」であると判断された。原因については、1/29の所内共通ディーゼル発電機(D/G)Bの燃料タンク点検を行うための軽油抜き準備作業において、燃料タンク出口弁を開けた際に燃料フィルタ空気抜きラインより軽油が漏えいしており、その後の確認において、通常閉状態である燃料フィルタ空気抜きラインプラグが開状態であったことから、漏えいしたことが判明。なお、通常閉である当該プラグが開いていた原因については、現在調査中。
- ・ H26/1/30 9:54 頃 福島第一原子力発電所1号機原子炉建屋1階大物搬入口付近にあるホースの接続部から水が滴下していることを協力企業作業員が発見し、当社に連絡があった。現場確認の結果、1号機使用済燃料プールのスキマサージタンクにろ過水を補給するために設置している消防ホースの接続部からの滴下であり、漏えいした水はろ過水であることを確認。滴下は1秒に2滴程度で、滴下した水は当該接続部の下に設置した容器で受けており、容器外への漏えいはない。その後、ろ過水を供給しているホースの水抜きを実施し、同日10:46、滴下は停止。なお、1号機使用済燃料プールの冷却に影響はない。当該ろ過水を補給するための系統は、常時使用している系統ではなく、スキマサージタンクの水位が低下した際にろ過水を補給するための系統。

#### 【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

##### <トピックス>

- ・ H25/12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

##### <タンクエリアパトロール実績(1/29)>

- ・ 高線量当量率箇所(β+γ線(70μm線量当量率))は確認されず。
- ・ 堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・ 目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・ 汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

##### <H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

##### <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

## 【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

### <トピックス>

- ・ 1, 2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット（南）地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は1/30 0:00時点で約7,486m<sup>3</sup> \*集水ピット（南）およびウェルポイントの総量

### <地下水観測孔サンプリング実績>

- ・ 今回新たに採取した地下水汲み上げ用の孔（No. 1-16(P)）からの汲み上げ水について、セシウムおよび全ベータ（1/29採取）の分析を実施。

[地下水汲み上げ用の孔 No. 1-16(P)からの汲み上げ水の測定結果：1/29採取分]

- ・ セシウム 134：検出限界値未満（検出限界値：0.42Bq/L）
- ・ セシウム 137：検出限界値未満（検出限界値：0.52Bq/L）
- ・ 全ベータ：検出限界値未満（検出限界値：18Bq/L）

No. 1-16(P)については、全ベータ濃度が高いNo. 1-16の近傍の井戸であるのに対して、検出限界値未満であるのは、汲み上げ水移送配管敷設時のリークチェックに使った残水を採水している可能性があることから、本日（1/30）、再度サンプリングを実施予定。

- ・ その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### <移送関係>

- ・ 2, 3号機東側に設置したウェルポイント（バキュームによる強制的な排水設備）からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・ H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No. 0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・ H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No. 1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔（No. 1-16(P)）からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

## 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

### <トピックス>

- ・ H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・ H25/10/3～ 地下貯水槽 No. 1 の汚染範囲調査開始。
- ・ H25/10/23～H26/1/16 地下貯水槽 No. 6 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/11/15～H26/1/16 地下貯水槽 No. 5 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/11/19～H26/1/16 地下貯水槽 No. 1 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/11/28～H26/1/16 地下貯水槽 No. 3 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/12/7～H26/1/30 地下貯水槽 No. 2 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/12/16～H26/1/27 地下貯水槽 No. 7 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H25/12/21～H26/1/27 地下貯水槽 No. 4 において浮き上がり対策を実施。
- ・ H26/1/30 地下貯水槽 No. 1～3 における貯水槽内部には、残水の希釈や漏えい検知孔等からの汲み上げ水を移送していたことにより、残水が溜まっていることから、H1東エアータンクへの残水の移送を開始。移送は2月末頃にかけて順次実施予定。なお、残水量については、地下貯水槽 No. 1 が約950m<sup>3</sup>、地下貯水槽 No. 2 が約700m<sup>3</sup>、地下貯水槽 No. 3 が約150m<sup>3</sup>である。

### <地下貯水槽サンプリング実績>

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上